

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「真夏に少年は腐らない」

テーマ:「茶道部系大和撫子なのに、BLを書く美少女」

キャラクター

45

ストーリー

45

テーマ(設定)

50

文章力

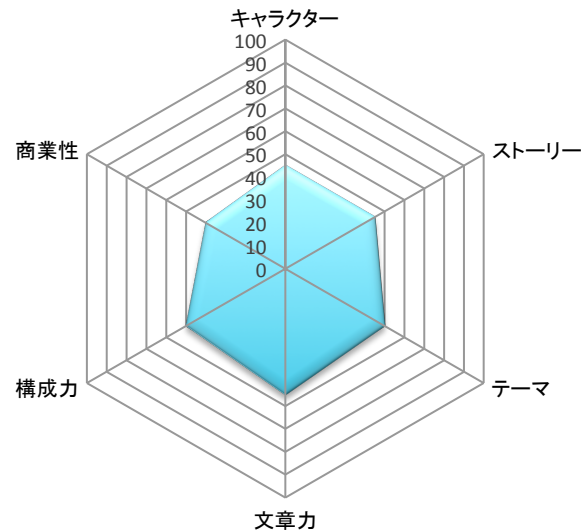
55

構成力

50

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- 物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- 物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- 時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- 伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- 笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・描写の仕方とストーリーの内容があまりうまくマッチしていない。具体的に述べると、ストーリー自体はBLが主軸におかれ主人公がモデルとして召喚させられるという腐った系コメディ感を出すところから始まるのに、一方で文章や表現は一般小説のように繊細丁寧であり、真面目過ぎるあまり面白くないお笑い芸人を見たときのような印象を受けてしまう。BLコメディ感を出して読者の笑いをとりたのであれば、文体はもっとふざけて雑に粗いものにして、良い意味で文章の繊細さを捨てていくことで面白い作品になったと感じる。

・読んでいる限り、恐らく作者様は女性で且つ女性的な繊細な文体が得意であるものと考えられるため、いっそのことBLという設定を捨てて、単純にヒロインが一般小説を書いているがスランプにおちいって〜という話にした方が一般小説っぽい澄んだ面白さが表現出来たのではないかと感じる。真面目になりきるかバカになりきるか、難しい問題ではあるがこれを意識することが今後の課題であると考えられる。

・ストーリーライン自体は非常に分かり易く読み易いものであった。しかし今回は50枚制限であったためどうしてもキャラクタ同士の関係性を描ききるには難しかったかもしれない。この設定で長編を書けばより完成度の高い作品ができたのかもしれない。

・作品投稿期間外で投稿したことによるペナルティ(-10×遅延分数)

合計減点ポイント: -30

総得点: 285 / 600

B方式総合得点: 10538 点